

こんぶくろ池通信

NPO 法人こんぶくろ池自然の森
Tel: 04-7132-8800
Fax: 04-7132-8806
Email: info@konbukuroike.com
URL: <http://www.konbukuroike.com>

2021年8月

第88号

主な予定

夜の昆虫観察会

(T-Kids イベント)

8月14日(土)

19:00~21:00

トラップ調査

8月20日(金) ~
21日(土)

10月1日(金) ~

2日(土)

「こんぶくろ池公園植生管理計画」が策定されるまで

会長 岡本 昇

この度、「こんぶくろ池公園 植生管理計画」が策定され、製本として発行されました。そこで、これまで策定にかかわってきた経緯などについて簡単に振り返ってみたいと思います。

はじめに

この計画策定にあたり、2018年度(平成30年度)に柏市から委託を受けたアジア航測株式会社(以下「アジア航測」という。)が公園内の重要な植物の生育状況調査や文献調査を行うとともに、アドバイザー(学識者)及びNPOに対してヒアリングを行い、「こんぶくろ池公園植物調査業務委託」報告書が作成されました。

「(仮称)植生管理計画検討会-第1回-」開催

NPOとしては平成17年度に「こんぶくろ池公園整備基本計画」が策定されてから10数年経過していることを踏まえ、より実効性のある植生管理計画などが示されるようかねてより要望してきたところ、現状の貴重な動植物に配慮したゾーニングを行ったうえで既存の植生や貴重な動植物に考慮した具体的な植生管理計画について、2020年8月に初めて同検討会が開催されました。

「(仮称)植生管理計画検討会-第2回-」開催

その後も新型コロナウイルス感染の問題が収束せず柏市内でも感染拡大が起きていることから、当初はメールでのすり合わせが検討されましたが、関係者が一同に会して議論したいと、アドバイザーの先生方からも強い要望があり、WEB会議に切り替えて2021年2月に開催されました。

お陰様で、柏市を始め、アドバイザーの先生方のご尽力及びNPOの役員等のご協力により同管理計画の報告書が発行されたことは大変うれしく思います。また、次年度以降は本管理計画に基づき具体的な作業に取り組むこととなりますので、ご一読いただければ幸いです。

なお、会議に参加したメンバーは次の通りです。

柏市：酒井都市部理事、佐藤公園緑地課長、長尾同課主幹、加藤氏
学識者(50音順) 千葉大学：木下委員、小林委員

東京大学：久保田委員、寺田委員、福田委員

アジア航測：細川氏
NPO：岡本、中川

こんぶくろ池公園 植生管理計画（抜粋）

3. 基本方針

3.1 基本方針

柏市緑の基本計画や、こんぶくろ池公園に係る社会的な背景等を踏まえて、こんぶくろ池公園植生管理計画策定にあたっての基本方針を以下の通り整理した。

（グリーンインフラとしての機能の発揮）

グリーンインフラとして、自然保全、レクリエーション（自然との触れ合い）、洪水調整機能、森林が有する大気浄化機能など、こんぶくろ池公園が有する多様な機能を適切に発揮するよう、植生管理計画を検討する。

（貴重な動植物の保全）

ズミやクロツバラなど、多様な貴重な植物が数多く生育しており、また、生態系の上位種であるオオタカが繁殖している。植生管理計画の検討にあたっては、これらの貴重な動植物の生育・生息環境を保全するとともに、生育環境が悪化している区域については生育環境の改善や再生を行うようにする。

（湧水湿地環境の保全）

ズミなどの氷河期からの遺存種は、湧水湿地環境に依存して生育している。このため、植生管理の検討にあたっては、湧水湿地環境の維持・創出に考慮して行う。加えて、こんぶくろ池の周辺にある施設や開発計画については、涵養域の維持と回復に配慮するよう関係機関に働きかける。

（順応的管理の考え方に基づいた植生管理）

植生管理計画の検討にあたっては、順応的管理の考え方に基づいて行う。ズミやミドリシジミ類などの貴重な動植物の生息・生育環境を保全するよう目標を設定し、モニタリングを行い、その後の植生管理手法の検討に活かすという仕組みを基本とする。

（こんぶくろ池公園の特性に応じた植生管理計画の立案）

こんぶくろ池の湿地にはハンノキ林、その周囲にはクヌギやコナラを主体とする落葉広葉樹林やスギの植林などが分布し、1号近隣公園にはハンノキ林や秋水燃料庫、芝生広場などがある。植生管理計画の検討にあたっては、植生や周辺の土地利用の状況など、エリアごとの条件を踏まえて区域区分を行い、区域ごとの保全すべき対象を念頭においた上で、継続的に貴重な動植物を保全できるよう、植生管理計画を検討する。

（市民やNPO、教育機関との協働）

こんぶくろ池の植生管理は、こんぶくろ池公園で活動しているNPO「こんぶくろ池自然の森」が中心となって行われている。また、こんぶくろ池は小中学校や地域住民の環境教育の場として、また、東京大学や千葉大学による調査研究の場として利用されてきた。このため、植生管理やモニタリングの実施にあたっては、地域住民やNPO、東京大学、千葉大学との協働を考慮した植生管理計画を検討する。

3.2 目標とする植生

(1) 現状の植生

- ・ 北側にある水路や旧ゴルフ場内の池の周囲は湿地となっており、ハンノキ林が見られる。また、氷河期の遺存種であるズミやヌマガヤ等が見られる。
- ・ こんぶくろ池公園全体では、クヌギやコナラ等で構成される落葉広葉樹林が多くを占めている。その林床には、キンラン等の貴重な植物が生育している。
- ・ スギ等の針葉樹は、北側の林内に列状に残っており、そのスギを利用してオオタカが生息している。
- ・ アカマツは松くい虫の影響を受けて、枯死している個体が目立つ。
- ・ 北側の草地では、ワタラセツリフネソウやノジトラノオなど、明るい草地に生育する貴重な植物が分布している。
- ・ 1号近隣公園内の草地は、家族連れなどに利用されており、開放的な空間がある。

(2) H17 基本計画のコンセプト

H17 基本計画における公園整備計画の検討にあたっては、「市民で育てる 100 年の森・こんぶくろ池自然博物公園」を基本コンセプトに、「自然との関わり」「人との関わり」「まちとの関わり」の3つの視点から、①自然の保全・再生・創出によって、100年の森を育て、②森と人の営みを活かして、心豊かな人を育て、③自然といつまでも共生できる健康なまちを育てる、ことが整理されている。

(3) 植生管理計画の目標とする植生

本植生管理計画の目標とする植生については、H17 基本計画のモデル及び目標を踏襲しつつ、NPO による植生管理活動の効果や園路の整備等の状況を踏まえて、モデルごとに検討を行う。

3.3 植生管理計画の目標達成のための期間

本植生管理計画で示した目標を達成するための期間は 10 年間程度とする。なお、計画策定 1~2 年後を短期的、5~10 年後を長期的とし、期間ごとの目標を設定する。

短期的・長期的な目標や目標を踏まえた作業内容等は、「8.植生管理実施に係るスケジュール」に整理した。

4. ゾーン・エリア区分

4.1 ゾーン・エリア区分の必要性

こんぶくろ池公園は3区域に大きく分けられ、それぞれ植生管理上の課題を有している。このため、区域を分けて植生管理方法を検討する。

こんぶくろ池公園においては湿性環境及び貴重な動植物の保全を最も重要であると位置づけるとともに、隣接している柏の葉キャンパス駅や県立柏の葉公園などの周辺施設が有する機能を考慮し、自然環境の保全を重視する。

表1 植生管理上の現状と課題

区域	現状	課題
こんぶくろ池	・ 柏市がNPOに植生管理業務を委託し、NPOが植生管理を行っている。	・ 落葉広葉樹林の更新や貴重な種を考慮した植生管理が必要である。
コリドー	・ 隣接する道路沿いをNPOが下草刈りを行なっているが、それ以外の区域は植生管理が行われていない。	・ 将来的には園路を整備する必要がある。 ・ 落葉広葉樹林の創出を考慮した植生管理を行う必要がある。
1号近隣公園	・ 柏市が必要に応じて植生管理を行っている。	・ 交通量が多い道路や公園利用、湿地を考慮した植生管理が必要である。

4.2 区域区分、モデル等の基本的な考え方

植生管理計画の策定にあたっては、H17基本計画のモデルを踏襲しつつ、以下の観点から検討を行う。区域区分及び境界部分の位置は図1に示す通りとする。

(区域区分)

- ・ 植生管理を行う区域は、「こんぶくろ池」「コリドー」「1号近隣公園」の3区域に分ける。

(境界部分)

- ・ こんぶくろ池公園が他の土地利用等と接する「境界部分」は安全等を考慮し、別途、植生管理等の考え方を整理する。
- ・ 境界部分は①公的機関・企業等に接するエリア、②住宅地に接するエリア、③交通量が多い道路に接するエリアに分けて検討を行う。

(モデル)

- ・ 植生管理の基本的な方針は、H17植生管理で設定したモデルを基本とする。なお、マツ林モデルは落葉広葉樹林モデルに変更する。

4.3 区域ごとの管理主体

現状等を踏まえ、区域ごとの管理主体を以下に示す。

表2 区域ごとの管理主体

区域	中心となる管理主体
こんぶくろ池	・ 植生管理及びモニタリングは、NPO「こんぶくろ池自然の森」が主体となって行う。 ・ 高木伐採や病虫害対策など、植生管理上、技術面・安全面でNPO「こんぶくろ池自然の森」にとって困難な作業が発生した場合、柏市は造園業者等への委託を通して植生管理を行う。

コリドー	<ul style="list-style-type: none"> ・植生管理は柏市が主体となって行う。 ・貴重な植物等のモニタリングは、柏市、NPO「こんぶくろ池自然の森」、大学等の教育機関または有識者が行う。
1号近隣公園	<ul style="list-style-type: none"> ・植生管理は柏市が主体となって行う。 ・貴重な植物等のモニタリングは、柏市、NPO「こんぶくろ池自然の森」、大学等の教育機関または有識者が行う。

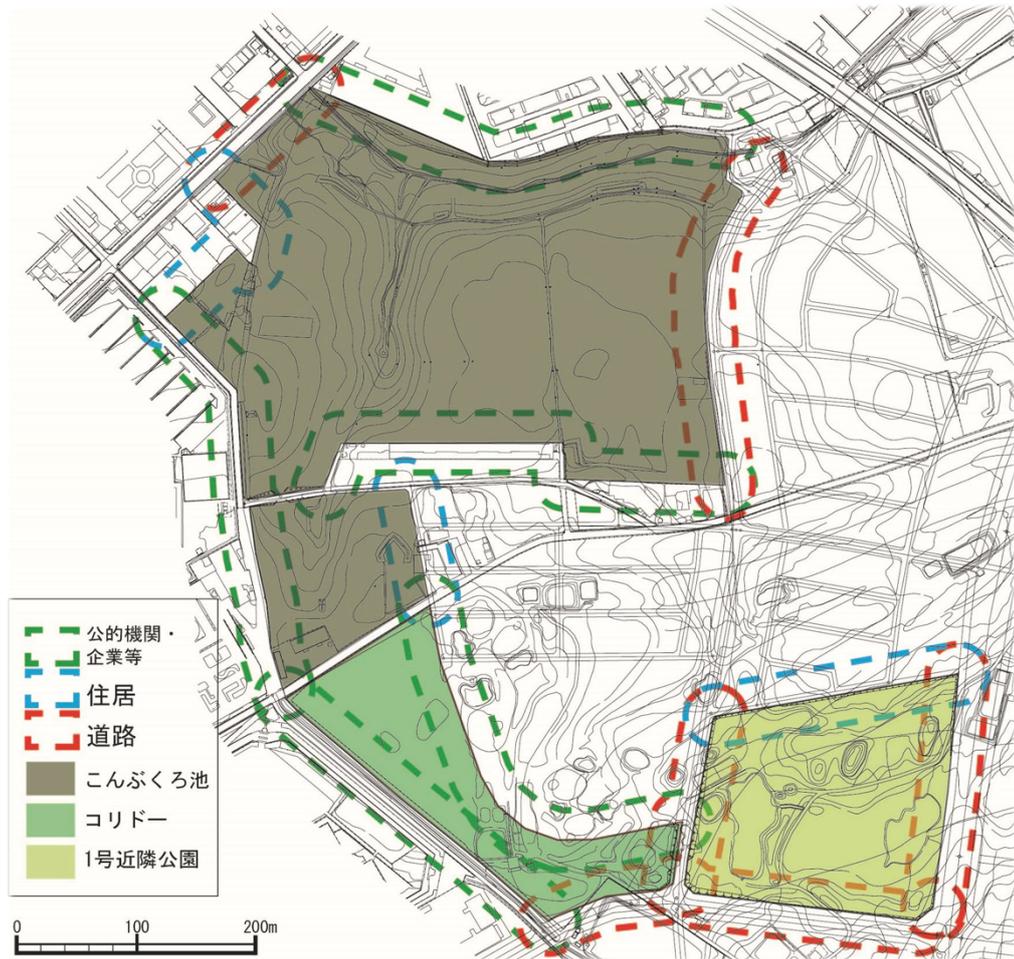


図2 こんぶくろ池公園の区域区分

4.4 植生管理に係る基本的な考え方

(1) 植生管理の基本的な考え方（各モデル共通）

- ・ 大規模な林相転換など、コストや作業量が大きくなることは基本的に実施せず、小面積での皆伐を試験的に繰り返しながら、落葉広葉樹林を維持するようにする。
- ・ 植生管理による植物相等の変化や、植生管理の改善等を行うための基礎的な情報を得るため、貴重種や樹林の状況を対象としたモニタリングを実施する（本計画における植物の貴重種及び生育位置は資料編参照。具体的なモニタリング手法等は「7.モニタリング p.25」参照）
- ・ 区域区分・モデルごとに植生管理を行う。モニタリング結果の状況等を踏まえて、植生管理方法の見直しを行う。
- ・ 樹木やその一部が園路や周辺施設等に倒れかかるなど、公園利用者への安全上の問題が生じる場合は剪定や伐採を行う。
- ・ 外来種は可能な限り除去する。

- ・ アズマネザサは、動物（タヌキ、ウグイス等）の生息場所となる一部を残す以外は、原則として刈り取りを行う。
- ・ 枯死木・倒木は、園路沿いを除いて残置する（病害虫による場合を除く）。園路の利用者の安全確保のため、園路沿いにある枯死木・倒木は撤去または林内に移動する。
- ・ 台風等による倒木やナラ枯れなど、大規模な攪乱の発生や大量の樹木の伐採が必要な場合には、有識者に意見を聞いて対策を対応する。

（２）境界部分の基本的な考え方

境界部分は、こんぶくろ池公園に接する土地利用を考慮し、3エリアに分けて植生管理を行う。

表3 境界部分における植生管理の基本的な方向性

エリア	基本的な方向性	植生管理の基本的な考え方
① 公的機関・企業等に接するエリア	保全を重視（公的機関・企業等の協力の状況に応じて、過度な植生管理は行わない）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 柵から5m以内にある10m以上の樹木は、生育状況（枯死、うろ、枝折れ等）や隣接施設への倒木や落枝の可能性などを考慮し必要に応じて剪定、伐採する。 ・ 柵から2～3mの範囲は下草刈りを適度に行う（年2回程度）。 ・ 必要に応じて生垣を設置する。
② 住宅地に接するエリア	安全を重視（見通しを良くする）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 柵から5m以内にある10m以上の樹木は、生育状況（枯死、うろ、枝折れ等）や隣接する住宅地への倒木や落枝の可能性などを考慮し剪定、伐採する。 ・ 柵から2～3mの範囲は下草刈りを積極的に行う（年4回程度）。 ・ 見通しを確保するため原則として生垣は設置しない。
③ 交通量が多い道路に接するエリア	安全を重視（見通しを良くする。高木の倒木や落枝による道路や歩道への影響を回避する）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 柵から5m以内にある10m以上の樹木は、生育状況（枯死、うろ、枝折れ等）や隣接する道路への倒木や落枝の可能性などを考慮し剪定、伐採する。 ・ 柵から2～3mの範囲は下草刈りを積極的に行う（年4回程度）。 ・ 見通しを確保するため原則として生垣は設置しない。

5. ゾーン・エリアごとの植生管理方針

高木（樹高10m以上の樹木）、中低木（樹高10m未満の樹木、高木性樹種の幼稚樹を含む）、草本類、ササ類、倒木・枯死木等については、こんぶくろ池、コリドー、1号近隣公園にあるモデルごとの植生管理方針は以下の通りとする。

5.1 こんぶくろ池

こんぶくろ池の区域は、H17基本計画と同様に、湿地モデル(A)及び(B)、落葉広葉樹林モデル(A)、(B)及び(C)、混交林及び常緑針葉樹林列モデル、草地モデルに分ける。

各モデルの植生管理の基本的な方向性はH17基本計画策定後の植生の変化や開発等の状況を踏まえ、表4に示す通りとする。

表4 モデルごとの基本的な方向性（こんぶくろ池）

モデル名	基本的な方向性
① 湿地モデル(A)	ズミ、サワシロギク、ハンノキ等が生育する、明るい湿地林の維持、創出
① 湿地モデル(B)	ツリフネソウ、コバギボウシ、ノカンゾウ、オオバノトンボソウなどが生育する、林床が開けた湿地林の維持、創出

② 草地モデル	ノジトラノオ、コシオガマ、オトギリソウ等が生育する、明るい湿地性の草本類の生育環境の維持
③ 落葉広葉樹林モデル(A)	落葉広葉樹の大径木や常緑広葉樹の高木を含む、多様な樹種で構成される樹林の創出
③ 落葉広葉樹林モデル(B)	小面積の更新伐採、下刈りや落ち葉かきなどをしながら、キンラン、クモキリソウ、ヒトリシズカなどを保全し、落葉広葉樹の大径木を含む、クヌギやコナラを主体とした多階層の落葉広葉樹林の維持、創出
③ 落葉広葉樹林モデル(C)	密生したアズマネザサが下層を構成する落葉広葉樹林の維持
④ 混交林および常緑針葉樹林列モデル	常緑針葉樹の大径木が混じる混交林、針葉樹林列の維持、創出



図3 こんぶくろ池のモデル区分

5.2 コリドー

コリドーの区域は、H17 基本計画では「マツ林モデル」であったが、現在の植生はアカマツが枯死し、マツ林モデルを目指すことは困難であることから、こんぶくろ池の区域との連続性を考慮し、落葉広葉樹林モデル(B)として管理を行う。

将来的に設置する園路にあたっては、隣接する道路の歩行者及び公園利用者の安全性に考慮し、園路の周囲 5m 程度は下草刈りを行うことを前提にし、かつ既知の貴重な植物の生育範囲を避けるように、園路の位置を検討する。

表5 モデルごとの基本的な方向性 (コリドー)

モデル名	基本的な方向性
③ 落葉広葉樹林モデル(B)	更新伐採、下刈りや落ち葉かきなどをしながら、キンランなどを保全し、落葉広葉樹の大径木を含む、多階層の落葉広葉樹林の維持、創出



図4 コリドーのモデル区分

5.3.1 1号近隣公園

1号近隣公園の区域のうち、「マツ林モデル」は、アカマツが枯死していることから、落葉広葉樹林モデル(B)とする。それ以外の区域は、H17基本計画と同様に、「湿地モデル(A)」及び芝生地に分ける。

表6 モデルごとの基本的な方向性 (1号近隣公園)

モデル名	基本的な方向性
① 湿地モデル(A)	ズミ、ハンノキ等が生育する、明るい湿地林の維持、創出
③ 落葉広葉樹林モデル(B)	更新伐採、下刈りや落ち葉かきなどをしながら、キンランなどを保全し、落葉広葉樹の大径木を含む、多階層の落葉広葉樹林の維持、創出
⑤ 芝生地	市民が利用可能な草地の維持

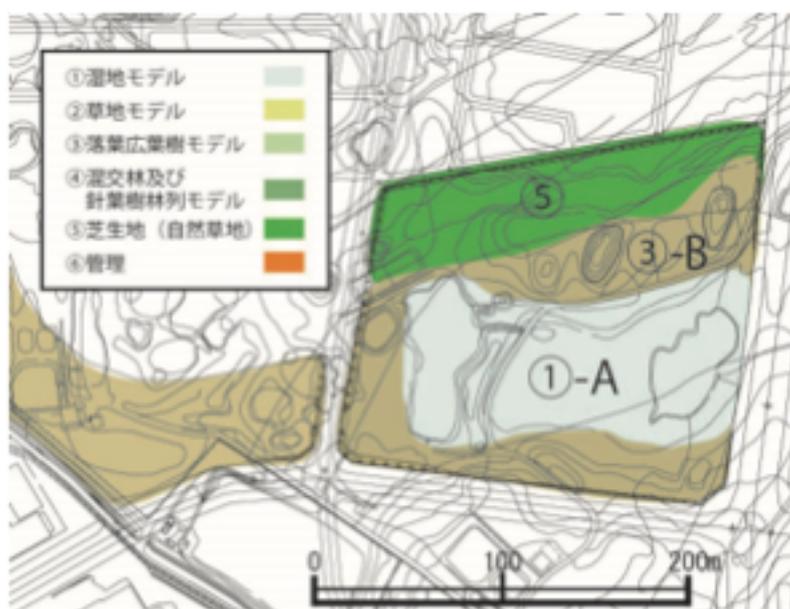


図5 1号近隣公園のモデル区分

6. 植生管理にあたって特に配慮すべき動植物

(1) オオタカ

- ・ 伐採作業の時期：営巣林周囲 100m 以内については、繁殖期である 2 月から 7 月までは伐採作業を避ける。なお、繁殖途中で抱卵が確認されないなど、繁殖の失敗が確認された場合は、6 月以降の伐採作業は可能とする。
- ・ 営巣木の育成：オオタカはスギを営巣木とすることが多いことから、スギの大径木を育成するよう配慮する。このため、過去の営巣木周辺にあるスギの実生や低木は、可能な限り伐採しないようにする。また、枯損木は伐採し、林内を明るくする。スギが密生している場合は間伐を行う。間伐は樹高 15m の場合、樹幹間隔が 3m 以上を確保するように行う。
- ・ 繁殖時期の配慮：営巣木が園路の近く（10m 程度）にある場合は、繁殖期間を対象に園路を封鎖するなど、公園利用者による影響を回避、低減する。

(2) ズミ

- ・ 生育環境の整備：明るい生育環境を維持・創出するため、ズミの個体周辺にある高木は伐採する。高木の伐採は、急激な環境の変化を避けるために年間数本程度を伐採する。伐採時期は秋季・冬季とする。
- ・ 倒木等の処理：台風等の倒木によりズミの個体や生育環境に影響が生じた場合は、倒木を速やかに伐採、除去まで行い、個体への影響を少なくする。
- ・ 人工受粉の実施：ズミの生育個体数は少ないことから、これまでの開花や結実の結果を考慮し、こんぶくろ池の個体については結実率が 50% を下回る場合、1 号近隣公園の個体については全個体を対象に、試験的に人工受粉を行い、その効果をモニタリングする。3 年間程度のモニタリング結果を踏まえて、人工受粉の継続又は中止について、有識者の助言を踏まえて判断する。
- ・ 苗木の植え付けの実施：ズミの生育数を増加させるために、こんぶくろ池公園内で採取した種を利用して、実生から育てた個体を 1 号近隣公園内の湿地に植え付ける。植え付けにあたっては、有識者の助言を得ながら、場所や時期、湿地環境への影響等を考慮して行う。

(3) クロツバラ

- ・ 生育環境の整備：明るい生育環境を維持・創出するため、クロツバラの個体周辺にある高木のうち、倒木の恐れがある個体は伐採する。
- ・ 倒木等の処理：台風等の倒木によりクロツバラの個体や生育環境に影響が生じた場合は、倒木を速やかに伐採、除去し、個体への影響を少なくする。

(4) ミドリシジミ類（クヌギ、コナラ、ハンノキ、イボタノキ）

- ・ 生息環境の整備：ミドリシジミ類は、クヌギ、コナラ、ハンノキ、イボタノキの落葉広葉樹を食草としている。これらの落葉広

葉樹の継続的に維持する知見を得るため、試験的に伐採・更新を行う。試験的な伐採・更新は、5m×5m 範囲を対象に数本の高木を伐採するとともに、実生の生育を促すために下草刈りを行う。伐採後には、実生から育てた苗木を植える。

7. モニタリング

- ・ 植生管理の効果を把握し、より良い植生管理方法を検討するために、モニタリングを行う。
- ・ モニタリングは、ズミやクロツバラ、ノジトラノオの生育状況や、森林モデルの変化を把握が可能となるよう、貴重種についてはその生育状況（個体数、開花率、結実率等）の把握、森林モデルの変化については、コドラートを設定し、コドラート内の種名、種数の把握により行う。
- ・ モニタリングの実施にあたっては、柏市、NPO、大学等の教育機関等が協力しながら実施する。
- ・ 概ね5年ごとに、柏市が教育機関等に委託を行い、全域を対象に貴重種の生育状況及びコドラート調査を行う。
- ・ 伐採後の植物の生育状況、動物の利用の変化を把握するため、必要に応じてセンサーカメラを設置する。

表7 モニタリング手法（概要）

モニタリング対象	対象植生モデル	モニタリング手法
ズミ、クロツバラ	こんぶくろ池及び1号近隣公園の湿地モデル	開花個体数及び結実個体数の把握、個々の成育状況（枯死、不良、良好）の把握
ノジトラノオ等	こんぶくろ池の草地モデル	ノジトラノオ等の貴重な植物の成育個体数又は成育範囲の把握
ハンノキ林	こんぶくろ池及び1号近隣公園の湿地モデル	10m×10m 程度のコドラートを設置し、コドラート内の植物種リスト及び高木の生育状況（枯死、不良、良好）の把握
落葉広葉樹林	落葉広葉樹林モデル、混交林及び針葉樹林列モデル	10m×10m 程度のコドラートを設置し、コドラート内の植物種リスト及び高木の生育状況（枯死、不良、良好）の把握

8. 植生管理実施に係るスケジュール

8.1 計画実施に係る基本的な考え方

計画実施に係る基本的な考え方は以下に示すとおりとする。

こんぶくろ池公園は、貴重で脆弱な自然であることをから、小面積での作業から進める。特にズミの苗木の植え付けなど貴重な種の保全に関係し、かつ、知見が得られるまで時間がかかる試験的な取組を、学識者の協力を得ながら優先的に進める。

また、10年後には目標とする植生への達成度や、かけられる作業量、予算等を考慮し、植生管理手法を柔軟に変更することとする。

モデルごとの短期的な目標及び長期的な目標を表8に示す。

(1) 植生管理

① 短期（1、2年後） 令和5年ごろを想定

- ・ 植生管理計画に基づいて、アズマネザサや中高木の常緑広葉樹などの植生管理を行い、作業後の植物相の変化や、アズマ

ネザサの刈り取り、コナラやクヌギの実生の植え付け等の作業量を把握する。

- ・ 特に、小面積の皆伐については、皆伐後のアズマネザサの刈り取り等に係る作業量が大きくなることも想定されることから、皆伐する位置や範囲について、有識者の助言及び、かけられる作業量、予算等を考慮して設定し作業する。

② 中期（5年後） 令和10年ごろを想定

- ・ 植生管理による効果や、試験的な植生管理によって得られた知見を活かして、長期的な目標を念頭に置きつつ、かけられる作業量や予算等を踏まえて、植生管理を行う。

③ 長期（10年後） 令和15年ごろを想定

- ・ 目標とする植生と、植生管理によって得られた植生とを比較し、目標の達成度を踏まえて、植生管理手法（方法、頻度、範囲等）を見直す。
- ・ 植生管理にかけられる作業量や予算等が十分でない場合は、明るい樹林の維持・創出が困難となることも想定される。その場合は、極相林を目指す区域を設定するなど、柔軟に対応するようにする。

8.2 植生管理に係る年間スケジュール（想定）

植生管理を行うにあたっての一般的な年間スケジュールを以下に示す。作業の実施にあたっては、特に以下の点に留意してスケジュールを検討する。

- ・ オオタカの繁殖期である2月から7月は可能な限り、高木の伐採作業を避ける。
- ・ 鳥類の繁殖期である春季から初夏にかけては、中低木の伐採作業を避ける。
- ・ 植物の受粉や結実を考慮し、春季から秋季の伐採を可能な限り避ける。

表8 植生管理作業の一般的な年間スケジュール

エリア・対象	作業内容	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
共通	作業範囲の設定				←	→							
湿地モデル	伐採、刈り取り								←	→			
樹林モデル	伐採、刈り取り						←	→					
草地モデル	伐採、刈り取り								←	→			
共通	伐採後モニタリング	←	→										

8.3 優先的に実施すべき事項

区域ごとに優先的に実施すべき事項を以下に示す。

(1) こんぶくろ池

- ・ こんぶくろ池公園の象徴であり、生育個体数が少ないクロツバラ、ズミの生育環境の整備を優先的に実施する。具体的には、台風等による倒木により、クロツバラ等に影響が生じた場合は速やかに撤去する。周囲に生育する高木等により、生育が阻害されて

いたり、日照条件が悪化していたりした場合には、周囲の樹木等の伐採や剪定を行う。

- ・ 小面積の皆伐後の植生管理は、アズマネザサの刈り取りや落ち葉かきなどの作業が増えることが想定されることから、優先的に実施して早期に作業量の把握を行う。
- ・ ズミの試験的な苗木の植え付けは、結果が得られるまで時間がかかることから、優先的に実施する。

(2) コリドー

- ・ 園路沿いは、見通しを確保して安全性に配慮する必要があることから、優先的に下草刈りを実施する。

(3) 1号近隣公園

- ・ 柏の葉キャンパス駅から最も隣接し、かつ、交通量の多い道路に接していることから、公園境界沿いは、優先的に下草刈りを実施する。
- ・ ズミの試験的な苗木の植え付けは、結果が得られるまで時間がかかることから、優先的に実施する。
- ・ 北側に接する草地は、公園利用者の利便性や隣接する住宅地への安全性を考慮し、優先的に刈り取りを行う。

「こんぶくろ池公園 植生管理計画」の冊子は管理棟に保管されていますのでご自由にご覧ください（持ち出し厳禁）。

7月理事会

(日時) 2021年7月31日(土) 10:00~12:30

(出席者) 岡本、上田、藤原、中川、萩原

1. 審議検討・確認事項

(1) 7/21 実施の公園緑地課との打合せ結果報告

「こんぶくろ池公園植生管理計画」に関する質疑応答、柏市から「禁煙表示板」を渡す件等

(2) (8/14(土)開催) T-kids 主催「夜の昆虫観察会」の準備状況について

- ・ 8月8日(日)に事前調査と事前確認を実施予定

(3) (10/17(日)開催) 「きのご観察会」の準備状況について

- ・ 広報関係：チラシ8月中に作成(上田・川瀬)、印刷200部(萩原)
- ・ 秋に広報でコラボできる団体の企画があれば、依頼を行う。
- ・ 観察経路の確認と・参加者抽選：9月18日

- ・ 観察場所と園路の刈込：10月に里山・調査班合同で実施予定
 - ・ 9月中旬までにセンコーに駐車場依頼を行う
- (4) 今年度の「里山保全活動体験会」の開催について
- ・ 昨年度同様、11月、3月に開催する
 - ・ 11月開催の場合、「広報かしわ」記事掲載内容を8/10頃までに提出要
- (5) UDCK とのコラボ企画について
- ・ 毎年秋に行われる「街まるごとオープンキャンパス」の時期のワークショップ実施について、8月末頃に打合せを行う予定。
 - ・ 11/14（日）を実施候補日としてUDCKと調整する
- (6) 8～9月活動計画
- ・ 8/15（日）は調査班は活動休止し、合同活動日そのものを8/7（土）に変更。
 - ・ 里山班は8/15（日）の活動実施の予定
- (7) ナラ枯れ対応について
- カシノナガキクイムシの生活環からTWTの実施は6月が望ましい。今年度はTWTを実施しない。
- (8) ハリエンジュおよびキウイフルーツ対応について
- ・ どちらも「産業管理外来種」
 - ・ ハリエンジュは、小径木と園路沿いの大径木は伐採、その他は巻き枯らしを基本とし、先ずはアクセス用のアズマネザサ刈りから始める。
 - ・ キウイフルーツは、合同活動日や報告を利用して駆除対象であることの情報共有し、活動時に適宜引き抜きを行う。

理事会の議事録は管理棟のファイルにて確認できます。